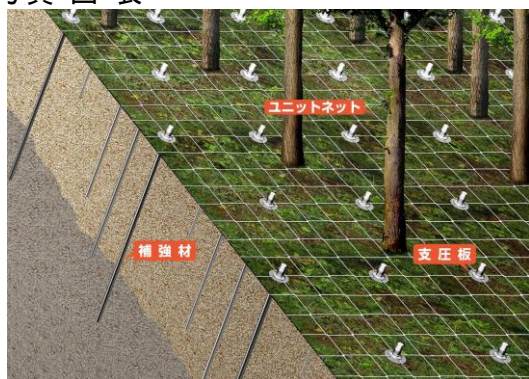


技術概要書（様式）

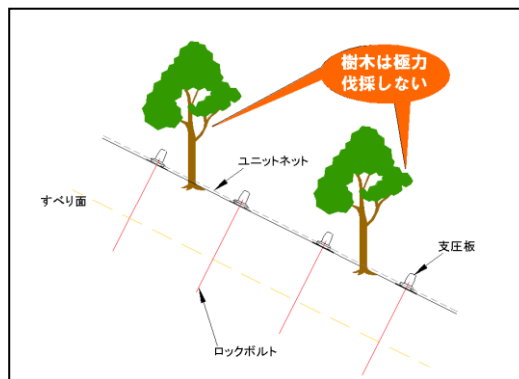
※別紙2

技術分類	○安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 (該当する分類に○を付けてください)		
技術名称	ユニットネット工法	担当部署	九州支店 土木資材課
NETIS登録番号	平成29年4月20日 掲載終了	担当者	磯谷幸男
社名等	株式会社ダイカ	電話番号	096-275-1020
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 近年、豪雨や地震等が誘因となり、斜面災害の中でも表層崩壊が多発し、甚大な被害を被っています。 斜面崩壊は森林荒廃を招き、CO₂吸収量を削減させ、地球温暖化を加速させて都市の住環境にも大きく影響する事から、自然環境保全や森林保全の機能を有した斜面安定工法を施すことが重要となっています。 2. 技術の内容 ユニットネット工法は、樹木を伐採することなく景観や自然環境の保全を図りながら斜面を安定化させることのできる地山補強土工法で、地山に挿入された補強材、地表面に敷設したユニットネット、ユニットネットと補強材を連結するために補強材頭部に取り付けられた支圧板から構成されており、これらの相互作用によって以下のような補強効果が発揮される。 1)補強材に生じた応力のユニットネットによる分散効果、2)ユニットネットによる土塊の押さえ込み効果 また、上記以外にも以下のようなユニットネットの敷設効果が得られる。 3)表流水の分散効果、4)表層土砂の流出抑制効果 さらに小規模な落石に対する防止効果も有している。 3. 技術の効果 環境性: 自然環境を保全しながら斜面の安定化が図れます。 景観性: 施工後においても従前の景観をほとんど損なわない。 施工性: 軽量部材の採用により、狭隘な場所での施工が容易になった。 工 期: 工場製作部材の採用と簡易な施工方法のため、工期の短縮が可能です。 産 廃: 切土、伐採をほとんど行わないため、産業廃棄物の発生量が非常に少ない。 4. 技術の適用範囲 1)適用可能な範囲 ・すべり土塊の層厚が概ね3m以下の表層土砂崩壊を対象とする。 ・自然斜面あるいは切土法面 2)特に効果の高いケース ・上記の適用可能範囲で、樹木等の保全が必要な自然斜面、植生の回復が必要な切土法面等 5. 活用実績 国の機関 41件 (九州 2件 、九州以外39件) 自治体 513件 (九州 72件 、九州以外 441件) 民 間 34件 (九州 2件 、九州以外 32件)		

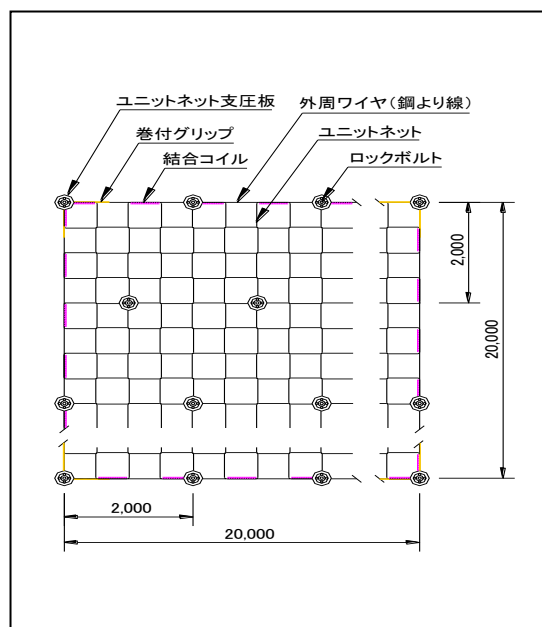
6. 写真・図・表



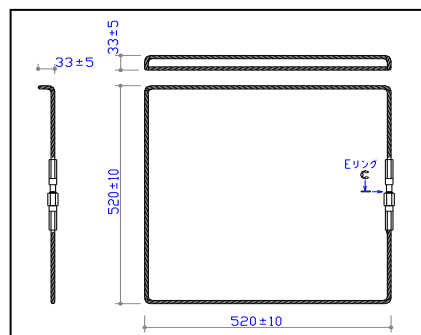
工法概略図



ユニットネット



標準展開図



組み立て図



施工例